

いちりん通信

No.26

関節リウマチ



【症例報告】

新宿区 A様 74歳 女性 関節リウマチ・歩行困難 週2回治療

Aさんは50代にリウマチを発症。徐々に骨が変形し、関節破壊が進み、膝は左右ともに人工関節となっています。歩行は、家具や手すりに掴まりながら、何とか室内を歩くことができます。Aさんは「リウマチになって二十年にもなるから、もう変わらないでしょう。」とあきらめ顔です。

その1 関節に「あそび」の余地をつくる

ふつう関節には、大きく動かす動きとは別に、ほんのわずかに動かす「副運動」と呼ばれる動きがあります。ところが、関節が変形したり破壊されたりすると、この副運動ができなくなります。その結果、関節を動かした時に痛みが出たり、強い抵抗感が出たり、場合によっては動かすことができなくなります。

マッサージでは、まずこの副運動をしやすくなるように、関節に「あそび」の余地をつくっていきます。

その2 円い動きを練習する

病状が進むと、身体の各関節が直線的な動きになってきます。例えるならロボットのようなカクカクとした硬い動きになり、歩行時は上半身が大きく揺れます。

リハビリでは、各関節が少しでも円みを帯びた柔らかい動きができるよう、繰り返し練習していきます。

その3 あきらめない気持ちを支える

リウマチはつらい症状が慢性的に続きます。ともすると自暴自棄になったり、イライラ感を周囲にぶついたり、やりきれない激しい感情になってしまいがちです。施術では患者様のお気持ちに寄り添い、あきらめない気持ちを支えていきます。病気を理解した上で傾聴することこそ、最も大切な治療となるのです。 (F・K)

